

お金に困らないように少しでも貯めたい!

9. 金額は少しでもいいから「貯める習慣」を身に付けよう!

足りないときや、将来に備えて貯めるには?

目的ごとにお金を分けておこう

収入の範囲で生活し、足りないときに備えて貯めておくには、お金を分けて管理するのがよい方法です。

保護者からの仕送りやお小遣い、奨学金、アルバイト代などは、1つの預金口座(メイン口座)にまとめます。そして、その月に使うお金を残して、それ以外のお金は別の預金口座(サブ口座)に移します。メイン口座にあるお金で生活し、サブ口座に手を付けずにいれば、自然とお金が貯まります。

メイン口座は振込手数料が無料になる銀行にするか、1つの口座内で目的別にお金を管理できるサービスのある銀行などを利用するとよいでしょう。

お金は分けて管理する

仕送り、アルバイト代など

目標を決めて
楽しく貯めよう



メイン口座
生活口座

サブ口座
貯蓄用口座

アルバイト代、奨学金などの振込口座

大きな出費や将来に備えて貯めるための口座

Column

ATMは手数料が無料のときに利用しよう!

銀行に預けたお金を引き出す際には、ATM手数料に注意しましょう。手数料は銀行などによって異なり、右はその一例です。預金している銀行のATMで平日の所定の時間に引き出せば手数料は無料。しかし平日時間外や土日祝日では110円、コンビニATMでは220円や330円などの手数料がかかります。

10万円を1年間預金しても利息は200円程度。預金していても、ATMの手数料の分、預金が減ってしまうので気を付けて。

ATM手数料と普通預金の金利を比べると...

ATM手数料(例)

- 預金している銀行のATMで引き出すと...
平日8時45分~18時まで **無料**
18時以降 **110円**
土日祝日 **110円**
- コンビニのATMで引き出すと...
曜日、時間により **220円~330円**など

利息(例)

- 普通預金の金利:
年0.2%の場合
10万円を
1年間預けると...
200円

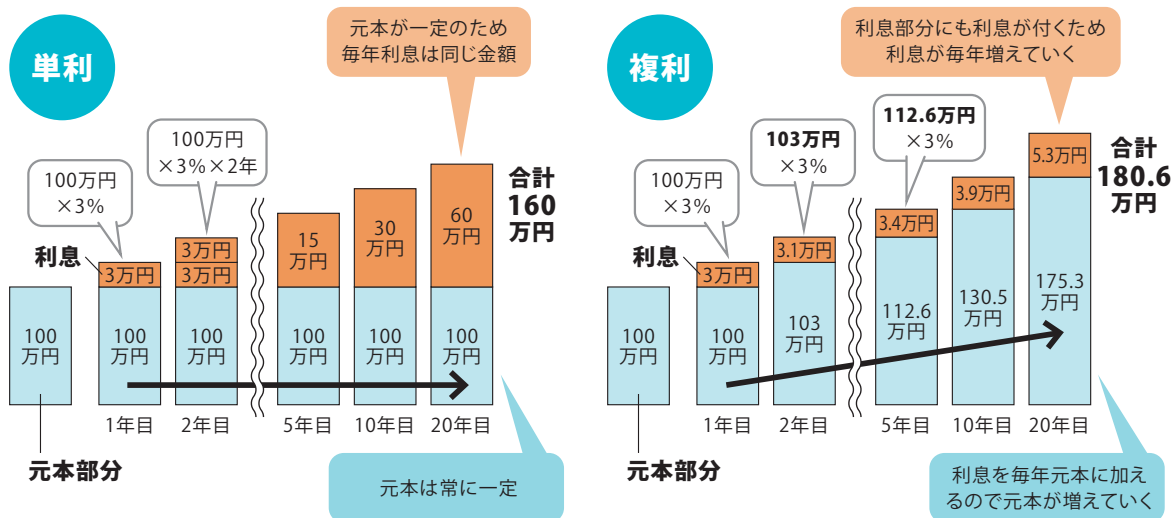
金利の付き方に違いはある？

「単利と複利の違い」を知っておこう

金利（利息）の付き方には「単利」と「複利」があり、金融商品によって異なります。単利では最初に預けたお金（元本）にのみ利息が付きます。これに対して複利では、預けた後に付いた利息が元本に

組み込まれ、その後は増えた元本に対して利息が付きます。元本が多い方が利息も多いため、単利より複利の方がより大きく増えます。お金を預ける際には金利のほか、単利か複利かもチェックしましょう。

「単利」と「複利」の利息の付き方の違い（元本100万円を年利3%で運用した場合）



ワークシート

お金を貯める計画を立ててみよう

ただお金を貯めようと思っても、そんなに簡単ではありません。貯めるには、「目標」を立て、「計画的に貯める」ことが大切です。

例えば卒業旅行のために15万円貯めることを目指すとして、旅行する時期を考え、貯められる期間が何カ月あるかを考えます。目標金額を月数で割れば、1カ月に貯めるべき金額が計算できます。あとは実行あるのみです。

$$\text{目標とするイベント} \rightarrow \text{目標金額} \div \text{貯める月数} = \text{1カ月に貯める金額}$$

例えば…

$$\text{卒業旅行のために貯めたい!} \rightarrow 15 \text{万円} \div 40 \text{カ月} = 3,750 \text{円}$$

自分の目標を書き出してみよう

$$\text{のために貯めたい!} \rightarrow \text{万円} \div \text{カ月} = \text{円}$$

Actions!

知っておくと便利! 元本を2倍にする「72の法則」を調べてみよう!

お金が増えるなら投資もしてみたい!

10. お金をしっかり増やすために 投資の正しいルールを知ろう

投資は絶対増える? 全額投資していい?

絶対はない。投資していいのはしばらく使わないお金だけ

銀行などの金融機関に預けたお金は、基本的に一定の利息が付き、預け入れた元々のお金(元本)より減ってしまう「元本割れ」を起こすことはありません。しかし投資は預金よりもお金が増えることもあれば、「元本割れ」することもあります。

減ってしまう可能性を考えると、持っているお金をすべて投資するのは危険。「使う目的と時期」に応じて、預金と投資を上手に使い分けましょう。

まず生活費や急な出費に備えるお金は、増やすことより、いつでも引き出せることが大切。「流動性資金」として普通預金に預けます。留学や引っ越しなど数年以内に使うお金は、増やしたいけれど減っては困る「安全性資金」として定期預金などに預けましょう。さらに遠い将来のために増やしたいお金は「収益性資金」として投資することができます。

流動性資金と安全性資金を確保し、余裕があれば投資を検討。それがお金を増やすためのルールです。

お金は、使う目的と時期に合わせて
運用先を選ぶ

流動性資金

いつでも引き出して使えるお金。
日常の生活費や
急な出費に備えるお金

普通預金

安全性資金

留学費用や引っ越し費用など
近い将来に使う予定があり
減らしたくないお金

定期預金など

収益性資金

5~10年程度、使う予定がないお金。
積極的に増やすことを目指し
一時的に元本割れしても許容できるお金

株式など

上から順番に確保する



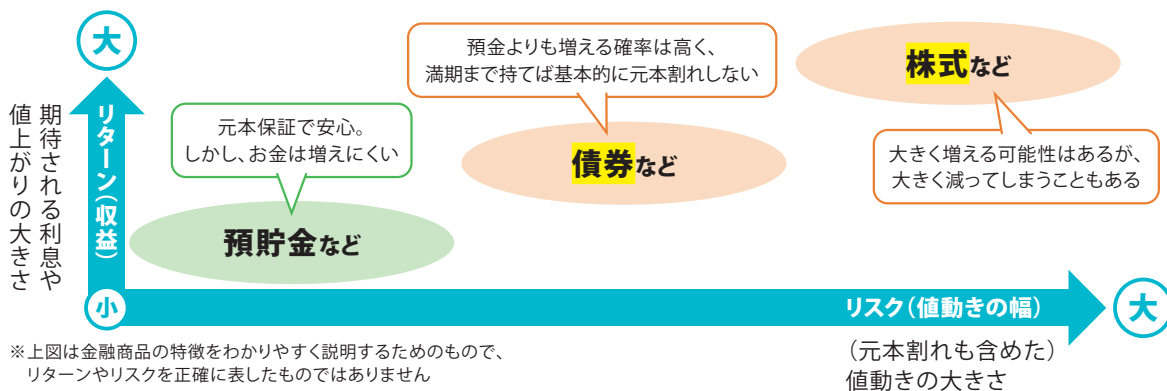
お金の増え方は商品によって違う？

大きく増える可能性があるほど、リスクも大きくなる

金融商品は、預金のように元本保証でリスクがない代わりに、ほとんど増えない商品から、株式など大きなリターンを期待できるけれど大きく値下がりするリスクのある商品まで様々です。しかし、投資

はギャンブルではありません。リスク（値動きの大きさ）とリターン（収益の大きさ）は比例することや、リスクを抑える方法など、正しい知識を身に付けて適切な方法で投資を始めるようにしましょう。

金融商品によってリスクとリターンは異なる(イメージ)



Actions!

「NISA」(投資にかかる税金が有利になる制度)について
金融庁のホームページなどで調べてみよう

Column

インフレに負けないためには投資が必要？

日本は物価が下落する「デフレ」が四半世紀も続きましたが、資源価格の上昇などからモノの値段が上がる「インフレ」に転じました。年5%のインフレでは1万円のモノが1年後には1万500円になります。預金の金利がインフレ率より低ければ、1年後に預金で買え

るモノの量や質が下がってしまいます。これが「インフレリスク」で、お金が増えるスピードより物価上昇のスピードが速く、期間が長くなるほど差は広がっていきます。投資は元本割れのリスクがある反面、インフレリスクには強いと考えられています。

